

O B 会報

第六号

横浜国立大学

ワンダーフォーゲル部
O B 会 発 行
1966. 11. 1

軽々と背負った連中の若い若い顔が先生のにこやかの顔と共に残っている。

そして同年七月に上高地でサマーキャンプが行なわれ、これに先生が参加された。最後はお一人で常念をこえて細野へと下って行かれた。

特集 柴田部長を送りかつ迎える々

横浜国立大学ワンダーフォーゲル部初代の部長として、柴田先生がこの三月末をもつて停年退職、新たに武藏工業大学教授に就任されました。親父さんを御送りするのはさびしいものですが、先生には

新たにO B会名譽会員として迎え、末長く共に山旅を楽しむことができることは、心暖まる気持です。本号ではわずかの頁ながら柴田部長の想い出を綴ってみました。いずれ部史が編集されればさらに詳しく折り込まれることと思ひます。

柴田先生とワンゲル

ワンゲルが生まれて三年目の三十四年六月。まだ新人合宿という名もなかつた尾瀬ワンダリング。「このワンゲルはじまつて以来初めてといふ

大バーティ三十四名」と部誌スカイラインに記されているこの尾瀬で柴田先生とワンゲルとがめぐり会つた。上天気のアヤメ平にはキスリングを

翌三十五年ワンゲルも一年から四年までそろい、部長を

おいてはと学生課のすすめもあり、ワンゲルにもつとも身近かな先生という事で、柴田先生がクローズアップされた。そして七月九日に夏合宿の壮行会を兼ねて柴田先生の部長就任式が行なわれた。(東北合宿)

その秋、車で日本一周をや

ろうともくろんだ者があり、車の事で先生の元に相談に伺つたことがあった。しかし当時の実力からみてこの案は実行にうつされなかつた。

三十六年夏合宿壮行会に出

三十八年新人歓迎コンペに出席。

三十九年夏合宿壮行会に出席。ひきつづき集結地の松江に参加の予定であったが、山陰地方集中豪雨で合宿中止のやむなきに到り、先生の夏合宿参加はお流れ。残念残念。

四十年新人歓迎コンペに出席。新人を前にしてドイツ語を披露。上級生諸君わかつたかね。Gesuntheit ein, Gesuntheit zwei, Gesuntheit drei.

同年七月にはO Bと共に栗駒山登山。

そして十二月の追コンペに

席。(立山合宿)
三十七年夏合宿壮行会、反省会共に出席。(岩手合宿)

そしてその暮の追い出しコンペに先生が初登場。いっしょに騒いで翌日は菩提峠までみんなと共に。この時追い出されたのは三期生。

参加。とうとう先生にも追い出しが手渡された。

あけて四十一年三月十三日。

O B 現役合同の柴田先生歓送

会が横浜 Y M C A で行なわれ、部長時代の先生の勞に感謝すると共に今後の御活躍を祈つた。

なおこの歓送会は塚原、井

田両氏の司会で行なわれ、O

B 代表松本会長、現役代表白神君の送辞、先生のあいさつにひきつづき記念品として銀製の酒器セットが送られた。

乾杯の後の会食の合間には、

長谷部娘のぶつけ本番のオルガン伴奏で歌をはさみながら、先生の部長時代の思い出話がつづられていった。

なお部誌スカイラインの二

巻二号、三巻二号及び四巻二号、及び O B 会報四号をお持ちであれば併読していただきたい。

最後に柴田先生の別れの言

葉を。

「諸君、がんばろう！」

僕もがんばるよ！」

世の中に山ほどいいものはない

柴田

「一人で山に行つて何が面白いのか」とよく人に問われるが、もう年令だから若い人と一緒では

人にも迷惑をかけるし自分もつらいから、この頃

は大低一人歩きに決めて

いる。勿論遭難などしたくないから計画は人一倍

慎重にやる。目的の山を

決めてから地図と案内書を持ち出して綿密なプラン

をあれこれと思ひめぐらす時は全く以て楽しみである。(中略)

「その年令になつて遭難でもしたらみつともな

いかにもういい加減に山登りは止め下さい」と

言う老妻の忠告はあるが、

山登り、いや山歩きだけ

は一生止めないと心に誓つてゐる。「世の中に山ほどいいものはない」か

らである。スカイライン

Vol.2 No.2より

暮坂峠と野反湖の旅

嘉納

(一期)

去る七月二十三、二十四日、二十五日、柴田先生が O

B 会の名誉会員となられてはじめての山旅であった。

○参加者、柴田先生、嘉納、宮崎、岩村、斎藤

牧原、織田、郡司

○コース

二十三日、上野→中之条→(バス)→沢渡温泉(泊)

二十四日、沢渡温泉→(バス)→大岩下駅→(バス)

→暮坂峠→新花敷温泉(泊)

二十五日、新花敷温泉→(バス)→野反湖→湖畔一周→

(バス)太子→上野

中之条からはバスで川に沿つた。シラサギが二、三羽舞う

関東平野の夏をよぎって、ぼ

はじめ、沢渡温泉についたと

くらはトネ川を渡り、アスマ

川をのぼって上州の山々へと

は急斜面の下にあった。三百

年も続いた温泉だそうだが、

新しくくりだった。雨の中

なところが楽しみにおもつた。

をあたりの散歩に出かけたが、雨はすぐ止んだ。蛇野川のほとりにニジマスの釣堀があり、一しきり釣を楽しんだ。

夜は先生と山の話をした。越後駒の頂上のすこし手前で疲れてしまい、実は頂上はきわめられなかつたこと、苗場はふもとの小屋に泊つていながら、天気がわるくのぼれなかつたこと、そう言えば、この旅行もはじめは六月に苗場にゆくことになつていていたのだが、雪や天候のことを考え中止したのだつた。もつとも予定の日はやはり山は荒れ遭難者を出したのだからやめておいてよかつたのだが。

あとは夜明けまでのトランプ。

翌日はバスでまず大岩までゆき、そこから坂道をのぼつて不動まで行つた。切り立つた大きな岩の崖の下に不動の社があつた。

社の先に滝があり、相当高いところから、小さな水滴となつて降るよう落ちている。双眼鏡でみると光の中で水滴がキラメキ、ゆるやかに踊つた。ふたたびバスで暮坂峠についた。牧水の像があり次のようない詩碑が立つていた。

「枯野の旅」

乾きたる

落葉の中に栗の実を

とりどりに

捨うともなく捨いもちて
今日の山路を越えて来ぬ

長かりしけふの山路
残りたる紅葉はてりて
樂しかりしけふの山路

鮮に餓うる鷹もぞ啼きし

と小雨の部落に下つてゆく、駒ヶ沢川の谷筋がみわたせた。ここで昼の食事をとり、山越えで花敷温泉に出ることになつた。ホホジロやウグイスがさかんにさえずり、大きくひびく声のアカハラも双眼鏡で姿がよくみえた。山道にかかるはホウの木、マタタビの白斑の葉、この奇妙にも可憐な花がオダマキの花などと言いながら進むうち、木馬道につけらしく、ひどい急斜面を苦労して登ることになつてしまつた。

温泉がある。道に沿う川の石はすべて鐵サビの赤茶けた色をして魚も住まぬ様にみえる。この川の下流は須川でこれが吾妻川にそそぐ。昔から死の川と言われ酸性が強く魚も住まず、田畠にも水を引けず困っていたのを最近、中和装置をつくって生き返つたと言う。

新花敷はいろいろの温泉がとかく都市化した中で、山の中の温泉の良さを残した温泉と言えるだろう。夜は又ゆるやかにすぎていった。

翌日は野反湖に向つた。バスから草津白根がよくみえ、上天氣である。

温泉がある。道に沿う川の石はすべて鐵サビの赤茶けた色をして魚も住まぬ様にみえる。この川の下流は須川でこれが吾妻川にそそぐ。昔から死の川と言われ酸性が強く魚も住まず、田畠にも水を引けず困っていたのを最近、中和装置をつくって生き返つたと言う。

温泉がある。道に沿う川の石はすべて鐵サビの赤茶けた色をして魚も住まぬ様にみえる。この川の下流は須川でこれが吾妻川にそそぐ。昔から死の川と言われ酸性が強く魚も住まず、田畠にも水を引けず困っていたのを最近、中和装置をつくって生き返つたと言う。

温泉がある。道に沿う川の石はすべて鐵サビの赤茶けた色をして魚も住まぬ様にみえる。この川の下流は須川でこれが吾妻川にそそぐ。昔から死の川と言われ酸性が強く魚も住まず、田畠にも水を引けず困っていたのを最近、中和装置をつくって生き返つたと言う。

々、北には苗場を背にする山なみ、そして眼下に、湖が静かにながめられた。

湖畔に立つとぼくの影におどりて、沢山のフナの群が沖に散った。無数のオタマジヤクシが岸辺におよいっていた。

などらかな原がみずうみをとりまき、わずかにうねった起伏をもっていた。空をうつした水と対岸の草原がのどかで美しかった。

ニツコウキスゲとアヤメの点々と咲いている岸辺をゆっくりとあるいた。

草原で食事になった。先生は「あゝ、いいね」とおっしゃり、「長かりし今日の山路」と言われて湖面を見て笑っておられた。

「終」

・柴田先生・

米屋 (期)

昨年二月十四日二十六才の

育二才の私が初めて結婚式の主役を相つとめましたが、その際柴田先生には奥様が御病気がありの身にもかかわらず、

無理にも仲人を御願い致しました。全く感謝の念で一杯でした。結婚式迄に二、三回先生宅に打ち合わせにゆく機会がありましたがその時次から

ればとつてまた別の良さが味わえるものだよ。」とおっしゃいました。先生のお宅にう

ればとつてまた別の良さが味わえるものだよ。」とおっしゃいました。先生のお宅にう

かがいますと、本当に心暖ま

昭和四十一年春季OB総会報告

どうも報告がおそくなりまして申訳ございません。以下は今年の春に横浜Y.M.C.A.

がこないという二つの基準

次へと尽きることなく出てくる先生の山の経験談はワイルド喜んで聞いており、本当に楽しいものでした。しかしとくに奥様との最近の北海道旅行の話の中で、利尻島ゆきのこと、奥様のお尻をおし上げて高山植物を見せてあげたと

第三期 宮崎

会議はてつとり早く切りあげて、その後に楽しくやりまして、その後に楽しくやりました。

河野

一、新人会員の件

卒業予定者十八名 全員入

会承認

三、名誉会員の件

柴田先生を満場一致で名誉会員に推せん致しました。

四、新人会員に部則説明

二、準会員の件

事務局の指名及び本人の意

志表示という基準にそって

約束をしたものでした。そしてかえりぎわに先生は

「君夫婦といふものは年をと

として先生に負けない頑丈にがん張ろうと心に大それた約束をしたものでした。

そしてかえりぎわに先生は

は部費の一年以上の滞納、これ迄の諸通知に全く返事

きめました。事務局の指名

O.Bと現役との間に意見の

くい違いが見られますので、今後機会ある毎に討論を行

兵山小屋の件

省略

OBと現役との間に意見の

くい違いが見られますので、

今後機会ある毎に討論を行

ない、くい違いをただすことと致しました。又、過去のOB総会で、山小屋建設についての決議がなされているにもかかわらず、OB全体の意思が個々に確認されていないため、現在準備活動は停滞している状態です。すでに山小屋建設の基本線は確立されおり事務的な点で渋滞していると判断されますので、今後の討論は事務局にて行ない、結果は総会にて報告することと

致しました。従って、本件に対し関心をお持ちの方は、直接事務局会に出席されるか、又は事務局員に個人

かかわらず、OB全体の意思が個々に確認されていないため、現在準備活動は停滞して

的でも結構ですからせひ御意見をおよせ下さるようお願い申上げます。

六、事務局員の件

塚原、郡司両氏を事務局員として推せんし承認されました。

(四期 跡部)

	1期	2	3	4	5	6	
正会員	5	12	14	13	15	16	75
西会員	1	0	3	1	6	2	13
準会員	6	0	1	0	0	0	7
家族会員	0	0	0	1	0	0	1
休会員	0	0	1	0	0	0	1
計	12	12	19	15	21	18	97

遭難対策委員会報告

OB 遭難対策委員 井田

(二期)

一、遭難対策委員会の経緯

OB、現役による遭難対策委員会が発足して昨年十二月十八日に第一回の打合せが行なわれて以来、計四回の会合がもたれ、ワングルの遭難対策について検討が加えられてきたが、その成果のほどについては特筆すべきものがないのは、はなはだ残念である。

遭難対策は大別して、実際に遭難が発生した場合の(一)救援対策と、遭難の発生を防止するための(二)予防対策に分けることができる。勿論、人命の尊さを考えれば、予防対策を充実させることがより根本的な問題の解決に資することは言うまでもないが、人命にかかる別関係のなさそうな部分か

る事故の收拾が敏捷に行なわれるような救援対策の体制を整えて置くこともまた肝要であろう。いずれにしても、遭難対策全般の根底にはきわめて根深い瘤がある。それはワングルが宿命的にもつその性格のあいまさであり、ワングルとは?という基本的定義についてだれもこれと確信のもてる一致した概念を与えることができない混迷とでも言えようか。

その点についての解明を果さない限り、一つの方針に貫ぬかれた科学的な結論を得ることは到底不可能であろう。その問題の大きさに辟易してとりあえず、特

ら手がけたが故に、特筆すべき成果が未だに得られない由縁である。

二、救援対策の概要

救援対策の主な検討項目は次の二点である。

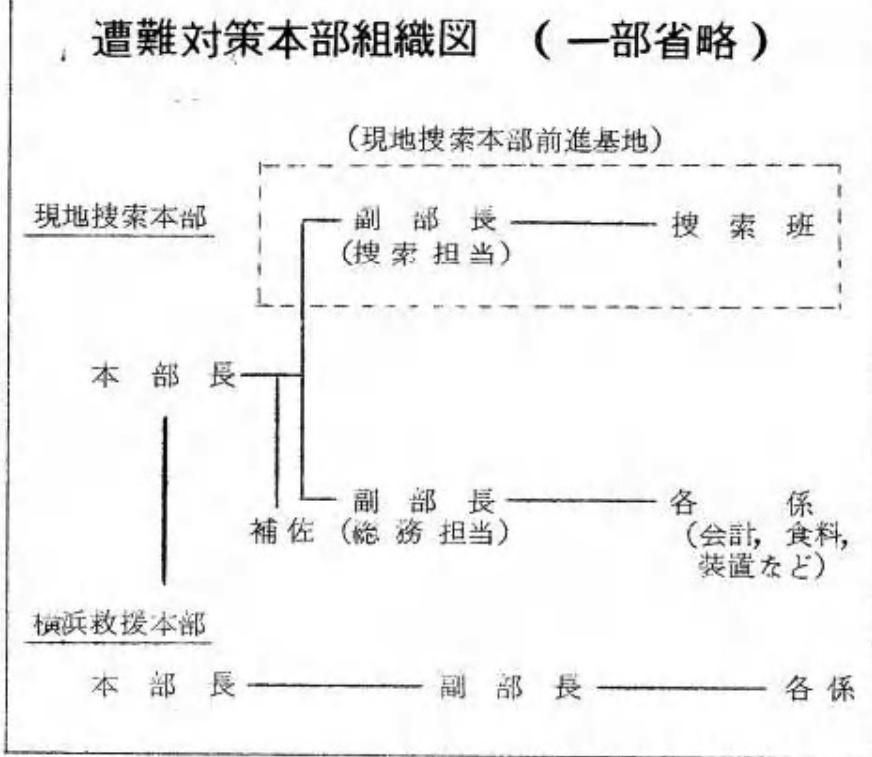
(1) 救援対策本部組織図の作成

(2) 部員間連絡機関の整備

(1)は、遭難が発生した場合、組織団に基づいて様々な活動を円滑に行なおうとするものである。

このような組織の遭難対策本部が設置されるのは規模のうえからも社会的にも非常に大きな遭難の場合のみであって、その他の場合には当事者の判断によつて適切な措置が講じられるのが望ましい。そしてこの組織図における役職、各係などには適任者の具体的の人名をあてはめた形で組織図を完成させるよう準備が完了し

組織図は次のとおり。



ている。

(2)は遭難が発生した場合関係者に対して迅速に連絡が行なわれるよう、連絡網の整備、山行計画表の部室常置及び学生課への提出、留守番本部の設置などを決定

している。この他にはワングル内部における連絡網の他にも、地元山岳関係団体、横の交流も盛んにして他団体の体験を参考にして遭難発生時の救援活動を誤らし

めないようにするよう心がける必要もあろう。また、遭難救援費用の面から、山岳保険についても検討をした。以前にも調査したことあるが、今回の結論は現在の夏期を中心とした部活動を考慮してみると、経済的負担が増大するばかりで、遭難費用調達という利点があるとは考えられない。ただ冬期の活動については、ワンドリング審査会が指定した山行に山岳保険を付保するよう審査会が勧告できるような制度を設けることなど考えている。

三、予防対策の概要

遭難予防対策は遭難の発生を防止するための諸方策であるから広範囲な要件を括している。すなわち、(1)基本的行動技術の修得、(2)補足的諸技術の修得、(3)ワンドリング審査会によ

る危険ワンドーリングの防
止一ダードの値と遭難の関

係について

(五)トレーニングによる体力

の養生

(六)医療管理

(七)遭難対策規約の制定(暫定)

定期規約は七月中旬に制

などである。これらのこととは部活動への参加の必要条件としてある程度体系的に実施されてきたし、また現在でも実施されている。ただ、それは多分に思いつきであり、体験的であって、ワングルの目的に照らした本値論としての把握に欠けていたきらいがないえない。したがって、諸程の既約規則を科学的、体系的、思想的に再検討してみようというのが基本構想なのであるが、未検討に終っている。部の本値を論ずることは我々の権限外である。しかし

遭難予防対策を考えるとき、本値論から離れることはできない。そこに問題解明のむづかしさがある。

北から

II 地方近況 II

南から

目下学期末の採点中です。

(四期 原)

☆: 仕事一途に暮していたら体が自由にならず山歩きももう四年ブランクができてしましました。最近は健康保持のため運動をと心がけていますが下腹をおさえるのが精一杯です。

(一期 望月)

☆: 女学校へ週三日行って高二の英文法を十時間受持っています。テストで私の方までフウフウいっています。

(四期 横山一郎姓広瀬)

☆: 今年は山へ行こうと張切っていますが、医者からカツケだなどといわれ、ヒザがガ

クガクしています。登れますかどうか。(五期 諸角)

(二期 狹野)

☆: 今年こそは山へ。すっかり山にもごぶさたです。

☆: 五月の連休に久しぶりに出かけ高峰を歩こうとしましたが、残雪に足をとられて打ボクし、そうそうに引きあげるという恥しさ。寄る年波とともにワングル魂も失せていくようです。(二期 岩上)

☆: 現在三年生を担当しています。今までの野ばなしの子供たちと違って親がかりの子供ですから、ある面では楽です。先日夏山の気象講座をある義務から受けましたが、スライドで雪崩で失くなつた方がほり起こされたのを見てショックを受けました。夏山に行く気もうするほどでした。

(二期 岩村)

☆: もう一年以上山へ出かけていないのでどこか歩いて見ようと思っています。五月の連休には今研究室に来ているウイーン大出の変な外人と研

て来ようと考へています。

☆: 無事棲息。この夏には立山、黒部辺りの雲の平を歩い

究室の者たちで自動車で東北

を大体一周して来ました。そ

れは八甲田十和田と雪をなが

め弘前で夜桜を見物した約五

日でした。（四期 永田）

☆：最近は仕事一筋の毎日で、六月末に東京に出張しました。初日は台風四号にやられ、最終日はビートルズ台風の交通ラッシュにやられて、ほうほうのて逃げ帰りました。（四期 斎藤伸）

☆：只今担当しております製品が順調に行かないため四苦八苦の忙しい毎日です。先日息ぬきにと久しぶりで尾瀬へ行つて来ましたが、幸い快晴に恵まれ、楽しい山行でした。（四期 谷上）

関西一日ドライブ

☆：医療社会事業つまりメデイカル・ソーシャル・ワーカー

ーと精神衛生相談員をしていました。精神障害者の家庭訪問が主な仕事ですが、今はひま

で毎日退屈しています。（六期 宮城）

☆：夏休みといえども毎日朝

早くから夜遅くまで学校でお

勉強（？）をしています。学

生時代よりヒマがないはずなのに、より多くのことを消化していくのはどういうこと

むのでやっと本来の私らしい色になりました。

（六期 山本）

☆：留守番がいなくなつたので山へ行くことができず残念です。どなたか留守番をひき受けて下さる方はいらっしゃらないでしょうか？

（五期 須賀）

「新幹線は速いと思った」ついさっきまで東京付近で仕事をしていた我々三人（跡部、

事務官）は、もう名古屋

郡司、谷上）は、もう名古屋の駅にいた。四月二日（土）午後八時頃であった。

新幹線からみると、うすぎなく見える近鉄の急行に乗って、三十分、目指す四日市駅に着いた。すぐ迎えに来て

いた車に乗つて四日市郊外の別荘地へ着いた。別荘は鉄筋

の白亜の三階建て。さてこれから美しい海と松林を見ながら一週間の疲れをいやそうと

いうことになる。といえば実

に優雅な生活であるが、実はこれは四月の初めに、三油化

斎藤 氏の御招待にあづか

つた我々三人が、 を含め

四人で、関西ドライブをした

時の幕あけの一場面である。

もち論、別荘とは三油化海の

家。車とは 氏愛用のブル

ーバード、ツートンカラーデ

ラックスであり、迎えの運転

手は 氏その人である。

翌朝、金田氏は釣りに行く

ので、まだ暗いうちに出かけた。今日は快晴、いよいよ本

来の目的である関西ドライブ

が始まる。興味のある人は地図を開けて下さい。コースを

説明致しましよう。

四日市から国道一号線を通つて亀山へ、亀山から現在工事中の名阪高速道に入り、天理市へ、それから北上して奈良、京都。名神高速道を大津へ、大津から琵琶湖大橋を渡つて再び名神高速道に入り名古屋まで全線三〇〇余キロのコースである。車はブルーバ

ード、ドライバー兼乗客は、
斎藤　跡部　郡司
、それと私の、残念ながら
男性ばかりの四人。

車は別荘を後に快音を響び
かせ?朝の国道一号を走る。
この道は私は一昨年も走って
いるのでなんとなく懐しい。
亀山のインターチェンジでま
だ片側しか開通していない名
阪高速道路に入る。結構混ん
でいる。ハンドルは私が握っ
ている。関東よりもなんとな
く、せっかちの人が多いら
しく、無理に追越しをするや
つが多い。鄉に入っては郷に
従えと、こっちも追越しをか
ける。片側とはい、全面鋪
装のハイウェー、回りの景色
なんぞ楽しんでいるうちに天
理市に入った。直ちに北上し
奈良へ到着。四月の日曜日で
快晴と絶好の行楽日和のため
人の出が多いこと。しかしな
んといつても奈良、寺あり、

芝生あり、鹿が遊び、なんと
なくのんびりとした所である。
樂しそうなアベックや家族づ
れを横目で見ながら男四人、
フラフラと歩いて回った。近

ごろの鹿はされているのか、
せんべい等、見せて決して
食ひに来ない。鼻面へ持つて
いってやると、いやいや食っ
てやると言わねばかりに、ま
ずそうに食う。実に面白くな
い。車は、京都を素通りし、

大津のインターチェンジから
琵琶湖へ出る。琵琶湖大橋は
確かに大きくて美しい。ゆ
っくりしているうちに、時計
はもう三時をだいぶまわって
いる。残るコースもあと名神
高速道を名古屋へと向うだけ
となつた。大橋を渡り、名神
高速道へ入る。連続九〇km時位
走つたが、単調で二〇分も走
へ七時頃到着。氏と名残
りを惜しむべき、テレビ塔へ

登ったり、夕食をとつたり。
氏も相変わらず元気であつ
たが、そろそろかな、と思わ
れる節もあつたような気がす
るが……：

我々は名古屋から、また新

☆新郎　永田　（四期）
新婦　永田　（旧姓
安部　四期）

幹線の人となつた。小田原で
跡部氏と私が峰り、郡司氏と

と　き　昭和四十一年二月二十日
ところ　九段会館

別れた。私はそこで跡部氏と
も別れ、足柄の山奥の社員ア

パートへ電車に乗つて無事帰
り着いた。久し振りで同期の
友達と、関西ドライブを、そ

☆新郎　嘉納　（一期）
新婦　嘉納　（旧姓木村
と　き　昭和四十一年十一月六日
ところ　大磯滄浪閣

れも一日で十分に楽しんで來
たことを思い、感慨深い。交通
が便利になり、関西も決して
遠くはない。それでも名
古屋を二十時に発ち、足柄山
奥のアパートに、二時間後の

いや驚きました。昭和の時代
には結婚などありえないと思
われていた嘉納先生もやはり

人の子でした。この会報をみ

て信じられる人が何人いるで

しょうか。新婦は三つ年下の

幼なじみの古風豊かな感じ

の人だそうです。嘉納先生の

心を搖がす様な人、是非とも
御尊顔を拝したいものですね。

以上

結婚おめでとう♪

新婦 龜井 (旧姓)

続柄 長男

片野 五期 生年月日:

etcと名前を考えるのに生まれてから十日間もかかり、苦労したのは製造するより名付けだった。姓名判断で、悪いとつだかの追い出しコンバの時

するのか極めて不可解であるが、恐らく、鏡の中に、原始

とき 昭和二十一年十一月六日 昭和

ところ 銀座東急ホテル

『所感』

知る人ぞ知るワングルのカツブル第二号、或る人は「いつだかの追い出しコンバの時

人生一大義務をはたした。なんだか大変な頃な、それでいてなんとなく快い気持です。

只今七ヶ月半、親に似ず丸々と太って体重十キログラム。

二月二十八日 丙午の午の

同類人を見出し、彼等同士の対話を楽しんでるのじやなかろうかと思つたりしている。

丹沢の山からおりてきた彼氏と彼女をみつけてハーレンと感じた。」そうです。新郎はカメラ会社の技術者、新婦は美術科出身、写真と絵画とは最適の組合わせですね。

保健所の話では一才二ヶ月の体重とか、驚きに入る次第です。

それにしても毎日、人に引き廻わされてまさに貧乏暇なし

日、どうだ、大丈夫かしつかんせい、がまんせいと病院へ

ベビー誕生 おめでとう

☆吉田 (一期)

ベビー名前:

続柄 長女

生年月日:

昭和

「所感」 後述

☆米屋 (二期)

ベビー名前:

論語、唐詩選、バイブル、

etcと名前を考えるのに生まれてから十日間もかかり、苦労したのは製造するより名付けだった。姓名判断で、悪いとつだかの追い出しコンバの時

人生一大義務をはたした。なんだか大変な頃な、それでいてなんとなく快い気持です。

只今七ヶ月半、親に似ず丸々と太って体重十キログラム。

二月二十八日 丙午の午の

体重とか、驚きに入る次第です。

それにしても毎日、人に引き廻わされてまさに貧乏暇なし

日、どうだ、大丈夫かしつかんせい、がまんせいと病院へ

行き、生まれた時には、体重が少なくわずかの差で、未成

熟児の域をまぬがれたが、七

ヶ月の今では、身長が九ヶ月

ぶん、体重は標準と親に似て

大分スマートになつてきた。

手足、身体の動きは超活潑、

狭い家中を手当たり次第なめり返つてゐる。鏡を見ると

奇声を発しつつ、両手を頭のうしろへもつて、両足で

ビヨンビヨンはね上つてゐる。

この動作が果して何を意味

二世の記

吉田 (二期)

○:ある現役の女の子がい

つてました。去年の新人歓迎

の時はあの人の顔はまづくろ

で私の方が白かったのに、今

年は逆で私の方が黒いの。シ

ヨックだわあ。それにしても

勤めるとあんなに色が白くな

るのかしらねえ。

○…カノウ氏が四日市より
もどつて以来、カネダ氏、サ
ダ氏、ムカイ氏、コンドウ氏
と毎年カノウ先生の声がかり
で油化に送りこんでいた工学

部もとうとう今年はソッポを
むいた。四人そろってはいそ
れまでと思いきや、今年は経
済から油化に名のりが上った。

はてさてこの次はどうなりま
すことやら。

○…今年も四月はほとんど
夏合宿に参加しないとか。い
つの間にかワングルは三年と
いう風習になつた感じ。そ
ういう連中がOBになってきた
ら月例などで大いにしどこう
よ。

○…今年のワンドーリングは
雨ばかり。自分が行けば絶対
晴れるという御方、今度つれ

てって下さいよ。

○…現役は今年も夏合宿を

例年のような形態で行なう。

そして例年どおり合宿前の要

項つくりにいそがしい。なぜ

合宿をやるのかという点はヨ
コにおいといて、何を合宿で
やろうかといきまいてる。あ

るリーダーの事を普段突飛な

事を言うから少し毛色のかわ

った合宿をやるかと思ったと

つゝいてみたら、これがワン

ゲルの限界なんだという声が

かえってきた。行く前には分

厚い要項が出来るけど、帰つ

たあののしめくくりは今年も

形にはなつてくれないんじや

なかろうか。そして今年の合

宿も行つた本人の中にだけ自

分がそこに行つたんだという

形でしか残らないのではない

だらうか。この十年、言つて

みれば同じくりかえしだ。十

年史を作ろうたつて過去の

記録などありはしない。まあ

主観でまとめ上げる以外なさ
そうですね。

○…みんな卒業してもワン

ゲル時代と同じ気持で山とい

うものをうけとめていると思

いこみ、自分もある田舎でそ

んな生活をしていたあるOB

が都会にもどつてきて、昔の

仲間に接して驚いた。自分で

メシをつくるような山小屋に

は行きたくないとか、もうキ

スリングなんぞ背負う気なし

とかいう言葉が帰ってきたか

らである。そこでボヤクこと

ボヤクこと。いつたい何の為

にワングルをやってたのかと。

まるで今年卒業したみたいな

ファイト。こんなOB一般と

少々ちがう考え方を持つ彼の、

五円ハガキを入れておけば二

円切手をはつてポストに入れ

てくれるだろうという考えは

ものの見事に裏切られた。そ

こでまたボヤイてる。ワング

ルを出していくといふどんな社会

人になつてゐるんだろうと。

○…太陽や月が水平線に近

づくと大きく見えるというこ

とは、近くにある星どうしは

その間かくが拡がつて見える

ということにならないのかね。

久野氏、小木曾氏が入学。工

学部もOBが四人そろい、事

務局の手もふえ、おかげで嘉

納氏の手間が大部はぶけた。

ところが事務局の方もはぶ

きすぎて今のところとりたて

て報告することは何もない。

(三期 井上)

月例ワンドーリング

☆七月二十三日～二十四日

暮坂峠、野反湖

L嘉納、柴田先生、宮崎
岩村、斎藤、牧原、織

田、郡司

上野ま中之条・沢渡温泉泊
II暮坂峠・新花敷温泉泊 II

野反湖II太子III上野

☆八月十四日 江の島、片瀬

海岸

L宮崎、嘉納、吉野、米屋、
藤林夫妻、白井、井上、
江崎、諸節、郡司、時田、

所、
海水浴を楽しみました。

☆十月二十三日 棒ノ折山

L宮崎、吉野、塙原、井上

立川III青梅線川井II

百軒茶屋I 棒ノ折山

名栗ラジウム鉱泉II

飯能III 池袋

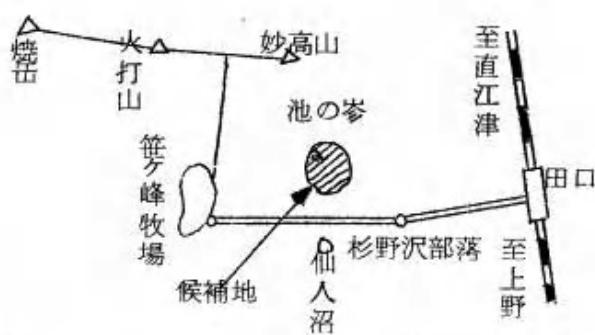
至直江津

田口

至上野

(2) 妙高高原

(参考) 山小屋建設
候補地概念図



原稿募集

近況、トピック、雑感
などなんでも結構ですの
で編集係まで御報せ下さい。

☆編集後記☆

交通戦争はますます激化して、今年は史上最高の交通機性者を出しております。ワングルのO.B. 諸氏にも我ももと教習所に殺到し、マイカ一族に仲間入りしております。

今まで歩く事を商元道具としておりましたものですから少し足を休めなくてはの親心かもしれませんね。まあ遭難対策委員会は交通遭難にも目を向ける必要があると思われます。

O B 会報第六号

編集責任者 米屋
発行責任者 松本

印刷 電話 横浜市
板橋 謄写堂



今年三月の総会にて次の諸
氏が会員となられました。

小木曾 (横国大大学院)

秋山 (北海道拓殖銀行)

江角 (横浜国大)

蓮尾 (東綿商事)

近藤 (三菱油化)

清水 (阪大大学院)

密島 (富士通)

久野 (横国大大学院)